



歯学部卒業おめでとう

歯学部長 山田好秋

卒業おめでとう。

私はこの原稿を大学入試センター試験の佐渡会場で書いています。以前は佐渡の受験生は冬の最中、新潟まで試験を受けに来たそうです。確かにこの時期は海も荒れ、それでなくとも緊張を強いられる受験生には大きな負担だったと思います。会場の県立佐渡高校に出向き、小高い丘の上にある立派な校舎に感激しましたが、県立高校の予算も厳しく廊下やトイレが寒いのに驚きました。歯学部の校舎が汚いとか、狭いとか不満はあったと思いますが、社会全般からすれば冷暖房の効いた、設備のよい環境で学んだことに気付くときがくるでしょう。

今年からいよいよ臨床研修が義務化されます。皆さんはどこで臨床研修を受けられるのでしょうか。新潟に残る人、新潟を去る人、生まれ故郷に戻る人、新天地を求める人、それぞれが新しい生活に期待と不安を抱いておられることでしょう。皆さんの卒業にあたりあなた方の先輩が歯科医としてたどった道を紹介してみます。

私の同級生に卒業と同時にスポンサーを見つけ歯科医師を複数置く診療所を開設した男がいました。彼はその診療所を成功させると、そこを同僚に任せ、遙か遠くの地に次の診療所を設け、そこでもその診療所を成功させ、今では自分の生まれ故郷に大きな診療所を開設しています。その間、当時はまだ一般的でなかった在宅医療にも積極的に取り組んだ先進的な歯科医師です。彼は学生時代から優秀であり、努力家でもありました。4年生（当時は学部2年生と呼びましたが）の春休みにはクラウンブリッジの英語の教科書を訳し、授業中に教授の間違いを指摘していました。かといって、そんなに目立つ行動をとるのではなく、とにかく着実に実績を積む男だったと記憶しています。そんな優秀な男がなぜ大学に残らなかったの

かと疑問にも思いますが、それもまた愚問かもしれません。

次に再び大学生活を楽しんでいる卒業生を紹介します。彼に対する当時の歯学部教員の評判は決してよいものではなかったと思います。しかし、卒業後も基本を守りまじめに治療に励んだと聞いています。その彼が数年前突然大学で再度学ぶ決心をし、一年目は合格しなかったものの、2年目に見事国立大学に入学を果たしたのです。今度は文系の道を進んでいるとのこと。団塊の世代の人間ですから、あなた方のご両親より少し上かもしれません。歯科の道しか見えていない人には彼のような人生も参考になるでしょう。

最後の例は、今年で歯科医を辞めて悠々自適の生活を送る決心をした同級生の話です。彼はある県の歯科医師会の副会長を務めています。非常に仕事熱心で、副会長の仕事で私に何度も電話やメールをくれました。あまりに頻繁に連絡があるのでいったいいつ患者様をみているのかと尋ねたところ、週に3日しか診療していないとのことでした。それでも十分な収入があり、歯科医師会の仕事にも専念できたのです。そんな彼が、診療所を閉鎖し沖縄に移り住むと聞き、私はうらやましくてたまりません。十分稼いだのかどうかはわかりませんが、歯科からきっぱり足を洗い新たな生活を試みるには今しかないのでしょうか。

あなた方の未来は運のよい人、努力が認められる人、様々だろうと思います。ただ、歯科医がある程度安定した職業であることはこれからも大きく変わらないでしょう。だからといって歯科以外に生きる道がないわけではありません。歯科医のライセンスを持ち小説家を目指す先輩もいます。社会に広くつながる歯学部であってほしいと願っています。



卒業おめでとう

新潟大学医歯学総合病院副院長 宮崎 秀夫

36期生の皆さん卒業おめでとうございます。心よりお喜び申し上げます。新潟大学での6年間いかがでしたか。卒業を機に、一度総括してみてください。入学試験の面接で、10年後の目標を皆さんに聞かれました。覚えていますか？ 皆さんは瞬時に10年後をイメージし、はっきりと表現されました。イメージどおりに進んでいることと思います。皆さんは現在、法制化された歯科臨床研修医の第一期生として全国の研修施設で新たなスタートを切りました。これから1年の目標設定は難しくないと思いますので、次の5年、10年を歯科医師として、社会人として考えてみましょう。立場、環境が変わると、また、経験を積むことによって、昔抱いたイメージに変化がみられるのも当然のことです。微調整にあたる1年間であり、あるいは大きな軌道修正を余儀なくされる期間であるかも知れません。大事なことは、自らの意志で決定し、道を切り開いていくことです。

これからの歯科医療を担っていく皆さんに考えてほしいことがあります。目の前の、病める人の歯科的な治療を行っていくことは当然のこととして、将来の歯科医療はどのように変わっていくのでしょうか？あるいは、どのように変えていくのでしょうか？たとえば、歯の再生技術が成功すると、今ある保存修復、歯周や補綴の治療学、予防歯科学は不要なものになってしまうのでしょうか？さらに、そうになると医師がいればよくて、歯科医師の存在は必ずしも必要でなくなるのでしょうか？これは極端な例ですが、他にもいろいろ

ろあると思います。

一つひとつの変化や事象に対して、世間（一般の人たち）はどう考えるのでしょうか。皆さんは専門家として考えること、やろうとしていることは、自分達の中だけで完結することはまずないと肝に銘じておいて下さい。必ず、世間の声を聞かなければなりません。意向を汲み取らなければなりません。世界中の人々は独自の社会・文化を背負って生き繋いできました。その社会性の中で許容される、いや、歓迎される歯科医療とは？もし、歯の再生治療が実現したとしても、「Oral self-care から一切解放される」と喜ばれるとはとても思えません。一度身に付いた「お口の爽やかさ」を放棄して、荒れるに任せることはしないでほしい。しかし、これは私の思い込みでしかないかも知れません。

最後になりましたが、皆さんには一日でも早く我々を乗り越えてほしいと願って止みません。引かれたレールに乗っかればうまくいった学生時代と違って、社会の荒波に揉まれながらも、それに負けずに一步一步前進して下さい。安易な生き方ではなく、困難な壁を選んでぶつかり、乗り越えてほしいと思います。将来は、卓越した臨床家として、あるいは、著名な研究者として世界の歯科界をリードして下さい。その暁には、新潟大学歯学部は皆さんを誇りに思い、世間に向けて自慢することができます。実現可能な我々の将来目標であります。

卒業にあたって

歯学科 北 條 将 貴



“卒業にあたって”という事で書かなくてはいけない様で、一番濃かった6年生の実習について書きたいと思います。

色々な事があった一年間でした。実際に総診で治療をさせていただいて、外来と技工室で大切な事を色々学んだと思います。

外来では、治療に対する心構えや患者様への接し方など、技術的な事以外も色々教えていただきました。また、色々な人に支えていただきました。

患者様には、色々ご迷惑をおかけしたと思います。一回で終わるはずの治療に何回もかかってしまったり、失敗してしまって何回か同じ治療をさせていただいたり……。それでも、その日の治療が終わると、「ありがとう、次もよろしくね。」と言っていただけたりして、とても支えになっていました。とても感謝しています。

先生方にも、とてもお世話になりました。一年間お付き合いいただき、ありがとうございました。

オロオロしていて、怒られた事もたくさんありました。いっぱいいっばいで、何を注意されているのか分からない事もありました。凹んだり、落ち込んだりする事が多々ありました。夏休み明けのある治療で、「今日、～の治療する予定です。」と報告したところ、「じゃあ、任せるから、いつもどおりやって。」という返事をいただきました。その一言がとてもうれしくて、今でも、鮮明に覚えています。その日から、落ち着いて色々考えられ

る様になり、少しずつ総診の治療が楽しくなっていました。他の先生方にも廊下であった時やプロトコル見ていただく時に、「次も頑張る。」と言っていただけたりしました。「次も頑張ろう！」と思える様になり、元気をいただきました。

技工室では、技工士の先生方にとってもお世話になりました。治療の技工物を見ていただく時、「他の学年の基礎実習中だけど、持っておいで。」とやさしく言っていただけたり、何回も同じ様な事を聞きにいったりしても嫌な顔せず丁寧に教えてくださいました。また、今年からマッチングが始まり、研修医試験で歯型彫刻があるという事で彫り方を一から教えていただいたりしました。その時も、「彫ったら持っておいで。」とやさしく言っていただけりました。結果を報告に行った時もとても喜んでくださいました。

技工物が遅れず治療に間に合わせる事が出来たり、マッチングが無事に終わられたりしたのは、技工士の先生方がいらしたから出来たと思っています。ありがとうございました。

総診の看護師さんにもとてもお世話になりました。とりあえず、困ったらスグ聞きに行くという感じで頼りっぱなしでした。治療以外でも、クラスで困った事や幹事の事でよく分からない事など相談にのってくださいました。一度、総診の先生方の会議に出席した時に「学生だけだと怖いので、ついてきてもらえないですか？」と、聞いた時、「え～、いいけど～」と言いつつ、ついて行っていた事もありました。その時は、他の人から見たら、幹事二人が保護者に連れられて歩いている様に見えたそうです。色々ありがとうございました。

あと、周りの友達にもとても助けられました。5年までも助けられていたのですが、6年では特にでした。

診療などで、どうしても係りを代わってもらわなくてはならない時、技工操作の時、治療の器具の使い方が分からない時など教えてもらったりと、とても助かりました。

「あのさ～、悪いんだけど〇月×日係り代わって欲しいんだけど……。」

「いいよ～、じゃあ、ノート書いといて。」

「ありがとう、ごめんね。」

「そんな、気にしなくていいよ、もたれ合いだろ～。(笑)」

こんな会話がよくありました。

一人ではどうしても無理なことがあります。その時に頼れる友達がいるのはとても心強いです。研修医になると、今まで仲の良かった友達は色々な地域に行きバラバラになります。ずっと連絡をとっていきたいと思います。

最後にマッチングのことについて書きたいと思います。今年から始まったという事で直前まで日程が決まらなかったり、研修医施設の調べ方が分からなかったりと大変でした。気付いたら、見学の期間が終わっていたり、願書の提出日が過ぎていたりしました。行きたい病院があったら、こまめにネットなどで見ておく事をお勧めします。別に行きたい病院はないけど、外に出てみたいと思っている人は、行きたい地域にどんな病院があるかホームページを何となく見ておくのも良いかもしれません。

また、最初の説明会では、試験が夏休み明け位になるという事であったと思いますが、実際に試験日は11月下旬になっていました。10月位から研修医試験の準備をしていたのですが、その位から国試の問題集が山積みになり始め、気になっていましたが手をつけている時間はなく歯がゆい思いをしました。もし、外に出ると決めていたら、研修医試験の準備が始まる前に、少し早目に国試の勉強を始めるのも良いかもしれません。

どちらにしても、2006年のマッチングは二回目なので検索などはしやすくなると思いますが、見学の日程や試験日は早くなるかもしれないので気をつけてください。

37期の皆さん、総診の治療、マッチング、国試と大変だと思いますが頑張ってください。

卒業にあたって

歯学部6年生 水口朝妃



歯学をめざして

中学生の時、国境なき医師団の途上国での活動を報道番組で見たことがあります。せっかくこの世に生を受けたのに乳幼児の死亡率が極端に高いのです。伝染病や悪い栄養状態、劣悪な生活環境が主な原因でしたが、様々な口腔内の疾患がもとで全身のコンディションが悪化し、なかには口蓋裂で母乳を飲めなくて餓死する新生児も多いという内容でした。

それらをなんとかできたらいいなと思ったこと、それが私が歯学をめざした原点でした。

札幌から新潟へ

新潟は佐渡の金山と日本一長い信濃川くらいしか知りませんでした。飛行機の上から新潟市を見ると、水を張った水田が陽の光を反射してキラキラと輝く鏡の板になって市街地を一面に囲んでいるのが見えて、自分がまるで不思議の国のアリスになったみたいに、いよいよこれから冒険がはじまるのだと思ってウキウキワクワクしたことを思い出します。

空港からバスに乗ると、民謡（「佐渡おけさ」など）が流れ、手拍子するか踊らなければいけないような怪しい雰囲気になり飲み込まれてもうほぼ宴会気分、新潟市が私を歓迎してくれているといたく感激したのでした。

鍛えられた6年間

そしてこの地で6年間たちました。まったくのゼロから駆け出して一応もうすぐ歯科医師といえるまでになったのですからこれはすごいことです。

思い起こすと、より多くのことを学ぶために時間的にもハードでした。講義と実習は質・量ともに膨大で厳しいものでした。隣の芝生は良く見るといいですが、工学部や文学部などの友人から聞いたカリキュラムは私にはまるで天国のよ

うに感じました。

細胞生物学では「The Cell」というテキストでした。この本はとても分厚く重いので、持ち運ぶうちに知らず知らずに腕の筋肉がついて必要以上にマッスルになりました（バストアップにも効果？）。また寝食も忘れてのめりこむために、贅肉がとれて体重が減り「セル・ダイエット」という流行語!? も生まれました。

なんといってもこの6年間の集大成は臨床実習！でした。

5年生のポリクリから臨床実習はスタートしました。ポリクリでは、お互いに擬似患者になったりなられたりと、多少の犠牲心と忍耐、そして友情と信頼関係がなくては成り立たない貴重な実習をさせていただきました。

そしていよいよ総診（本実習）が5年生の秋から始まりました。

毎日が新鮮な驚きと、緊張感の連続でした。そして「学生であり学生でない、社会人であり社会人でない。」という浮遊感に加えて、毎日がバンジージャンプを跳ぶ直前のようなドキドキ感で本当に新鮮な毎日が続きました。

最初は単に技術的なものを習得する場と考えていましたが、そのような単純なものではなくて、日々に異なる患者様の生のニーズや様々なコンディションへの対応の仕方がわからずまるで自分が赤子のような気がして時折パニックになりかけて、本当にこの道でやっていけるのだろうかと不安になったことも多々ありました。

そんなときに、患者様から「ありがとう、とっても良くなりました」との一言を頂いたときは、この道に来て良かったと心底思いました。総診に来ていただいている患者様は、どの方も神様のよ

うに優しく私たち学生を見守ってくださり、患者様の一言で心が救われたことが何度もあったのでした。

こうして一年過ぎて気がついてみると、山の頂に立ってはじめてふもとの全体を見渡せるように、臨床に触れたことによって今まで学んだ講義や実習のすべてがようやく互いに結びついた気がします。総診の場で得られたものは想像以上に大きかったのだとつくづく感じています。

医療人をめざして

あるとき患者様のお子さんのしつけや教育のことを相談されました。人生相談に答えるなどまだ人間として未熟すぎる私にはとても無理ですし、学生という立場でもあるのですから、丁重にお断りしましたが、そこまでこの私を信頼してくれるのが涙の出るほどうれしかったです。単に医者患者の関係にとどまることなく人間同士として信頼関係を築くことができるようにさらにもっと励まなければと思いました。そしていつの日かきっと、歯科の技術もすばらしいけれどそれだけにとどまらずに、キラリ輝くプラスアルファを持った人間性あふれる医療人になろうとあらためて決意しました。

今私は、新潟大学歯学部 of 諸先生方のご指導と庇護のもとから巣立っていきますが、この私を今の私であるように支えてくださったことに対して深く感謝申し上げます。また事務や医療スタッフの方々、そして共に歩んだ同期の友達にも本当にお世話になりありがとうございました。皆さんの数々の支えをもとにこれから私は自分の道をしっかりと力強く歩いていきます。ありがとうございました。